

令和4年度 第3回
東京都地域活動に関する検討会
速 記 録

令和5年3月1日（水）

東京都庁第二庁舎31階 特別会議室27

午後 1 時30分開会

○地域活動推進課長 お待たせいたしました。定刻になりましたので、ただいまから東京都地域活動に関する検討会を開催いたします。

私は、事務局を務めます東京都生活文化スポーツ局都民生活部地域活動推進課長の山本でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

本日の検討会ですが、お手元の資料 1 「東京都地域活動に関する検討会設置要綱」に基づき設置されており、検討会設置要綱第 8 により、本検討会は公開とさせていただきます。御異論がなければ、検討会の議事録も公表させていただくことを御了承願ひます。

なお、昨年12月に開催いたしました本検討会の議事録につきましては、東京都のホームページに公表させていただいております。

それでは、ここから、検討会設置要綱第 5 第 2 項により、本検討会の座長を務めます生活文化スポーツ局都民生活部長の馬神が進行させていただきます。よろしくお願ひいたします。

○座長 検討会の座長を務めます、生活文化スポーツ局都民生活部長の馬神でございます。よろしくお願ひいたします。

では、座って進めさせていただきます。

皆様、本日は、お忙しいところをお集まりいただき、誠にありがとうございます。本日も忌憚のない活発な意見交換をしていただければと思います。よろしくお願ひいたします。

では、まず、配付資料につきまして事務局から確認させていただきます。

○地域活動推進課長 それでは、資料の確認をさせていただきます。

お手元御覧いただきまして、まず、東京都地域活動に関する検討会の次第がございます。その下、資料 1 として「東京都地域活動に関する検討会設置要綱」がございます。次に、資料 2 といたしまして「東京都地域活動に関する検討会委員名簿」がございます。さらに、資料 3 といたしまして「東京都地域活動に関する検討会座席表」がございます。その下、「東京都地域の底力発展事業助成事例集」、最新の事例集でございます。令和 5 年 2 月作成版がございます。最後、宮桃町会様から御提供いただいている「お出かけ安心キーホルダー作業工程」のペラ 1 枚がございます。

配付資料は以上となります。不備などございましたら、お手数ですが挙手をお願いいたします。よろしいでしょうか。――御確認ありがとうございます。

また、本日は座席に設置されているマイクを使用いたしますので、御発言をいただく際

には目の前にございます手前のボタンを押して、マイクの赤い光を御確認いただいた上で発言いただき、終わりましたら再度押していただきますよう、よろしくお願いいたします。

よろしくお願いいたします。以上です。

○座長 続きまして、新任委員の御紹介をさせていただきます。昨年10月の令和3年度第1回の検討会から、1名の委員の方が交代されております。お手元の資料2の委員名簿の「※」がついてございます、調布市自治会連合協議会、米田会長代行が就任されました。なお、本日は所用により御欠席となっております。

なお、本日は、資料2にございます委員の方々のうち、千代田区、中央区、品川区、豊島区、北区、荒川区、江戸川区、府中市、福生市、多摩市、稲城市、奥多摩町の12名の委員の方々の御欠席の御連絡を受けております。また、何市何区か、ちょっとまだ御到着でない方々がいらっしゃるようですけれども、遅れてお見えになると思われれます。

それでは、本日の次第に入らせていただきます。

本日の議題は、「地域の課題解決に向けた取組について」でございます。

東京都では、地域活動の担い手でございます町会・自治会の皆様方が行う祭り、また防災訓練など様々なイベントを支援し、地域課題の解決、また町会・自治会の活性化を図っていただくため、地域の底力発展事業助成を実施しております。本日は、本助成金を活用いただいた町会・自治会の中から3つの町会の皆様にお越しいたごしまして、取組内容について御紹介するとともに、発表いただいた事例を基に意見交換を行いたいと思っております。

それでは、事務局にて事例発表の進行をお願いいたします。

○地域活動推進課課長代理 それでは、事例発表に移らせていただきます。私は、東京都生活文化スポーツ局都民生活部地域活動推進課で課長代理をしております高城と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、まず、本日お越しいただいている3町会様を御紹介させていただきます。着座にて失礼いたします。

まず、墨田区菊川一丁目町会・会計の佐藤様です。

○菊川一丁目町会 ただいまご紹介いただきました、墨田区菊川一丁目町会、会計を担当させていただきます佐藤と申します。このたび、このような機会をいただきましたことを菊川一丁目町会としても大変うれしく思っております。

それともう1点、この地域推進課の担当の方から、今回、餅つき大会を通じて多文化共

生社会づくりについて検討いただいてみてはとアドバイスを頂き、町会内で検討し、昨年度より多文化共生社会づくりについて取組みさせて頂く事になりました。実際、取組むことにより、多文化共生社会づくりの大切さについて実感し、改めていろいろアドバイスを頂き、今後の取組みについてもぜひ御協力いただければと思っております。改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

○地域活動推進課課長代理 ありがとうございます。

続きまして、日野市の南新井自治会・広報委員会代表の伊藤様です。

○南新井自治会 日野市から参りました南新井自治会の伊藤と申します。自治会の中では広報委員会という組織の代表をしております。今日は、残念ながら日野市は自治会連合会がないものですから、お席の中に当市の方がいらっしゃらない。これは非常に残念だと思いつつ、とはいえ、非常に東京都さんの助成金、あとプロボノですね、こういったものを活用させていただいて、当自治会としては非常に活用しつつ、そのノウハウを今まさに貯めているところでございます。どうぞよろしく願いいたします。

○地域活動推進課課長代理 ありがとうございます。

続きまして、中野区宮桃町会・支えあい推進部の青木様です。

○宮桃町会 中野区宮桃町会から参りました青木と申します。本日はどうぞよろしく願いいたします。

○地域活動推進課課長代理 ありがとうございます。

それでは、早速事例の紹介に移らせていただきます。本日は、お配りしております資料、事例集の冊子を活用いたしますので、お手元に御用意いただければと思います。

では、まず初めに、墨田区菊川一丁目町会様の「餅つき大会を通じた世代間交流・多文化共生社会づくり事業」を御紹介いたします。

最初に私のほうから事例集に沿って事業の概要を御説明させていただき、その後、私から佐藤様のほうに何点か質問をさせていただきたいと思っております。

それでは、お配りしております事例集の2～3ページを御覧ください。

では、まず事業概要ですね。2ページのほうを御覧いただければと思います。

町内会の世代間交流を図ることを目的としまして、菊川一丁目町会さんのほうで、町内の老人会、子供会、ボランティアの方々などの協力も得て餅つき大会を実施いたしました。参加者の方に餅つきを体験していただくとともに、つきたてのお餅と豚汁を振る舞われま

した。また、会場の入り口で町会や子供会への加入促進パンフレットを配布するとともに、会場内で町会や子供会、太鼓サークル等の活動をパネルで紹介しました。また、多文化共生の推進のため、町内の日本語学校の生徒に餅つき大会への参加を呼びかけるとともに、町内住民には多文化共生チラシ300部を戸別に配布しました。

次に、実施期間ですけれども、餅つき大会は11月28日に開催しましたが、約4か月前の7月20日から準備を始めて、反省会を12月の末に行ったので、事業期間としては約5か月間になります。

役割分担ですが、町会役員を中心に約30名が会場設営や餅つきを行いました。ここには子供会の若い保護者層の方が多く参加し、協力してくださいました。また、約30名のボランティアが餅づくりや豚汁の調理や配布を行いました。

助成金は、餅つきや豚汁の材料や容器類、またマイクやアンプ等の購入費、また石臼やコンロ等のレンタル費として活用をされました。

続きまして、右側のページを御覧ください。

餅つき大会ですが、コロナの影響で令和3年度は規模を縮小し、対策を徹底して実施されたとのことですが、当日は親子連れが多数訪れて、餅つき体験を楽しむ子供たちでにぎわいを見せました。参加を呼びかけた町内の日本語学校からは中国人の女性生徒が来場されました。餅つきなどの文化に触れ、とてもいい経験ができたと好評をいただきました。

なお、本事例は昨年度令和3年度のものになるんですけれども、菊川一丁目町会では今年度も底力助成を活用して餅つき大会を実施されています。その際には町会内の外国人が多く勤務する企業にも参加を呼びかけまして、中国やタイ、ミャンマーの方々が参加されたとのこと。

それでは、ここから菊川一丁目町会の佐藤様にお話を伺っていきたくと思います。よろしく願いいたします。

まず、餅つき大会の運営のスタッフについてなんですけれども、会場設営などに子供会の若い保護者層の方が多く参加いただいたということと、またボランティアの30名ほどが餅づくりですとか豚汁の調理と配布をお手伝いいただいているということで、今、町会への協力者の不足等々、高齢化等々でイベントの開催が難しくなっている町会さんも多いと思うんですけれども、どのようにしてこの餅つき大会、イベントへの協力者を集めていらっしゃるのでしょうか。また、多くの協力者を集めるコツのようなものがあれば教えていただければと思います。

○菊川一丁目町会 私どもの町会では3つの取組みを考えております、1つは町会の協力団体——菊一子供会、老人会、女性ボランティア、菊一レスキュー隊、菊一太鼓などが有り、そちらの協力団体と年間を通しての活動に対し助成をさせていただいております。

2つ目は、毎月行っている町会の役員会、菊一子供会、老人会等の会長、役員に参加していただき、常に情報交換をして、互いに協力できるような環境づくりをして、意思の疎通を図り、町会行事を円滑に進めるような形で毎月役員会を開催させていただいております。

3つ目ですが、各行事に参加していただいて万が一事故等があった場合に備えて、総合保険に加入しており、皆さん安心して参加していただけるような環境づくり、この3つを心がけています。

○地域活動推進課課長代理 ありがとうございます。日頃から様々な団体と相互に連携しやすいような環境を整えていらっしゃるということで、ありがとうございます。

続きまして、今回、外国人住民の方に参加を呼びかけられたということがありまして、そこに関してお伺いしていきたいと思っております。

町内の日本語学校の生徒の方に参加を呼びかけられて、また今年度は外国人が多くお勤めの企業にもお声がけして御参加いただいたということなんですけれども、外国人住民の方に声をかけようと思ったきっかけを教えてください。

○菊川一丁目町会 きっかけは、先ほどちょっとお話しさせていただいた底力の担当の方から、今回、餅つきを通して多文化共生社会づくりについて検討していただいているかどうかということでお話をいただき、町会として役員会にかけまして、ぜひやっていきたいということで初めて、私どもの町内に中国人学校があり、まず訪問して責任者の方に趣旨を説明して、町会の餅つき大会に中国人学校の学生に参加していただき地域の方々と交流を深めていきたいと思っておりました。

今年に関してはさらにもう一歩進めようということで、町内を見回したところ、町内の会社の中に勤めている外国人の方がいっぱいいるんですね。それと、小学校にも外国人の小学生がいる、当然家族の方がいるのではないかとということで、会社を通して家族の方と一緒に参加して頂くように——お子さんを通じて家族の方も一緒に参加していただくような形での働きかけをさせていただきました。

それと、もう1点は、町会内に外国人の方と親交がある方も何人かいらっしゃるものから、そういう方を通じて、一緒にこの餅つき大会に参加していただくような形での働

きかけもさせていただきました。

以上です。

○地域活動推進課課長代理 ありがとうございます。

外国人の方を呼びかけるということに関してどういうふうにしたらいいのかな、ちょっと分からないなと感じている町会さんもいるかと思うんですけども、呼びかけるに当たって工夫したこと等はございますでしょうか。

○菊川一丁目町会 特に注意したことというのはないのですが、直接というのはなかなか、面識がないし、話したこともないので、会社に勤めている社員の方を通じて一緒に、その会社の方とその家族の方に話をしてもらおうほうが話が早いと思うのですね。ですから、直接のお話というのは先ほどの中国人学校には直接行ったのですが、あとは会社を通じて、会社の責任者の方から担当者と家族の方に話をしてもらって参加していただいたという経緯になります。

○地域活動推進課課長代理 ありがとうございます。ちょっと身近なところで外国人の方がいらっしゃるようなところに働きかけて、きっかけをつくって、参加しやすい環境を整えていくというのが大事なのかなと思います。ありがとうございます。

続きまして、加入促進について伺いたいと思います。餅つき大会の会場の入り口で町会や子供会への加入を呼びかけるパンフレットの配布ですとか活動紹介パネルの展示を行ったということなんですけれども、まずそれを見ていただくためには会員の方への回覧以外にも未加入の方にも広く参加してもらおうということが必要になると思うんですけれども、回覧以外にどのような周知を行って多くの方に参加いただけるような工夫をされたか教えていただければと思います。

○菊川一丁目町会 それは、当日、子供会を中心に町内で拡声器を使ってお餅つき大会の開催を呼びかけるということで、やはりどうしても告知はしているのですけれども、なかなか当日忘れてしまう方が多いのかということで、朝から巡回して何回か、町内を回っていただくような形をとって周知徹底を図りました。

○地域活動推進課課長代理 ありがとうございます。

あと、このいろいろ取り組まれた中で、町会や子供会への加入につながった例があれば教えていただければと思います。

○菊川一丁目町会 まず、町会の加入促進のところで、町会行事の活動紹介パネルを会場内に設置しました。菊一子供会、老人会、菊一太鼓と町会の行事、年間を通して主立った

行事のものを写真でパネル展示させてもらっております。その中で、各団体が行っている行事を具体的に見て知っていただくことによって興味を持っていただき加入促進につなげていく。例えば太鼓ですと毎年盆踊りですとか、今回も東京マラソンでも太鼓を演奏させて頂いているのですが、パル展示を見て、子供たちの友達が直接太鼓を演奏しているパルを見て、小学生の低学年から入会するという子供が割合多いのですね。ですから、現在でも菊一太鼓では小学生・中学生合わせて22名の会員がいて、中学生以上は卒業してOBになりますけれども、会員数としてはかなりの会員数になっているのですね。

それともう一つは老人会ですけれども、老人会については、お誕生日会ですとか、毎月のウォーキング、絵手紙、ダンベル体操、お花の会、踊りの会等、いろいろ活発に行動しており、現在102名の方の会員がおります。

あと、菊一子供会も、近くの町会で子供会がない町会があり、私どもの菊一子供会は他町会からでも私どもの菊一子供会に加入してもらっているということで、59名の子供の加入者がおります。

以上です。

○地域活動推進課課長代理 ありがとうございます。様々な団体でいろいろな活動を定例的に行って、その都度PRしていくというところが大事なかなということと、やっぱり小さいうちから活動に参加していただくことで、その後の大人になっていってから、またその御家族の方の参加ですとかということにつながっていくのかなというふうに思いました。ありがとうございます。

では、最後に、望つき大会実施当たり工夫していることですとか、ほかの町会さんが実施するに当たって参考になるアドバイス等がありましたら簡単に教えていただければと思います。

○菊川一丁目町会 幾つかあると思いますが、私どもではまず、開催の告知を丁寧にやるということで、できるだけ町内の掲示板も長く掲示し、回覧板で告知し、町内会の会員に無料券の配布、それと先ほど言ったように当日の朝に拡声器で開催の告知。会場前にのぼり旗を立てて、通りすがりでも入っていただくような形での活動をしております。

それと、2番目としては、先ほど言ったいろいろな、老人会、子供会、ボランティア等いろいろな役割があるのですが、活動の役割を分担して、連携して、できるだけ効率よくやるということで、これを毎回させていただいております。

それと、3つ目としては、餅つきでは一応子供会用の専用の杵を用意して、子供専用

ついていただくということで、毎年楽しみにしていただいています。

それと、4つ目としては、つきたてのお餅ですね。つきたての餅をできるだけ早く食べていただくということで、皆さんについていただきながら、そのつきたてのお餅を食べていただくということを心がけております。

それと、5つ目としては、去年からやっている多文化共生社会づくりという取組をさらに推進して外国の方との交流を深めていく。最後に毎回やっている反省会で出た意見を次の開催に改善していくことで、効果が上がっている点が幾つかあります。簡単に紹介させていただきますが、私どもでは小学校の体育館を中心に開催させていただいていますので、直接土足で使えない為、養生シートを床全面に張るのですが、当初は1,800幅の養生シートを全面に敷いていましたが、張る手間とそれを処分する手間が結構かかるものから、もっと処分を簡単に900幅の養生シートに変えてみたり、それでも同じように手間がかかるものですから、今年からは10×10メートルの養生シートを全面に敷くように変更することによって、簡単に設置ができて回収も簡単にできるということで、かなり効率がよくなり、養生シート張りの準備作業が大幅に時間短縮でき、とても評判がよかった事例です。

もう一つはお餅つきの杵ですが、当初は木製の杵でしたが、木製の杵が、レンタル業者の貸出がなくなり、石臼に変えたのですが、石臼に変えたところ、お餅がすぐ冷めてしまい、暖かいお餅が出来ないので、もう一度石臼を木臼に変えてほしいという要望があり、検討した結果、以外の木製の臼がなくて、あっても高額ということで、何とか石臼で対応できないか再検討し、石臼に対しては、こまめにお湯を張り冷やさないような工夫をして、何とか石臼でも対応できるようになったということで、参加している方の意見に基づいていろいろ改善提案していただき、できるだけいい方向で皆さんに満足していただけるような対応ができるようにということで、検討会、反省会の意見を次に生かすことも重要ではないかと思っております。

以上です。

○地域活動推進課課長代理 ありがとうございます。皆様の意見を参考にしながら年々活動を充実させていっているということで、貴重なお話をありがとうございました。

では、続きまして、日野市の南新井自治会様に移らせていただきたいと思います。事例集は4ページ、5ページになります。「住民の交流促進を目的とした防災イベントの実施」を御紹介させていただきます。同様に私のほうから最初に概要を説明させていただき、

その後幾つか伊藤様に質問させていただきたいと思います。

まず、事業概要を御覧ください。

南新井自治会様では、これまで実施してきた白い布を掲示する安否確認訓練に加えまして、LINEを使ったデジタル安否確認訓練を実施いたしました。未加入世帯にも防災訓練への参加を呼びかけることで、住民の交流促進につなげることを目指すものです。

安否確認訓練は令和4年の2月26日に実施しましたが、初回打合せを10月16日、反省会を3月13日に行ったので、事業期間は5か月間になります。

役割分担については、各戸の安否確認や本部への報告を行う自治会組長会の16名のほかに、イベントの企画運営を行うイベント委員会に11名、ホームページなどでの情報発信を行う広報委員会がサポーター2名を合わせて7名、参加賞の包装や印刷物確認など事前準備の手伝いを行うイベントサポーター17名で分担をして行いました。

助成金は、デジタル安否確認訓練で使用するプロジェクター、スクリーン、タブレット等の物品の購入や印刷経費として活用をされました。

5ページを御覧ください。

訓練当日は2種類の安否確認訓練を行いました。1つが従来実施してきた白いハンカチ運動で、安否確認用の白いタオルを玄関先に掲示してもらい、それを組長が確認し、LINEにより本部に状況を報告しました。2つ目がデジタル白いハンカチ運動になりまして、自治会が持っているLINE公式アカウントから登録者に対し安否確認の登録を依頼するメッセージを送付し、安否確認の登録フォームから登録をしてもらいました。

LINEを使った安否確認訓練の流れは、5ページの右上の図を御覧ください。まずは会員以外の方も含め、エリア内の住民に訓練実施案内のチラシを配布しました。訓練当日の朝7時50分に、LINE公式アカウント登録者に訓練実施を予告通知しました。8時に地震発生を知らせる通知、8時2分に地震が収まった後の対応を指示し、8時4分に安否確認の登録指示メッセージを送付しました。そのメッセージの内容が、事例集4ページの左下のLINEの画像になります。当日は、アカウントに登録した会員や組長からのタブレットに安否確認訓練の報告が自動的に管理画面に反映され、管理画面は自治会のホームページからも閲覧できるようにしました。安否確認訓練には、町会未加入の方も含め、白いハンカチでの確認が90軒、個人のLINEからの登録が49名、合計参加者数は139名となりました。また3世帯の新規加入につながったとのことでした。

それでは、ここから伊藤様のほうにお話を伺っていきたいと思います。よろしくお願

いたします。

まず、運営体制についてなんですけれども、イベントの企画運営を行うイベント委員会に11名、ホームページなどでの情報発信を行う広報委員会にサポーター合わせて7名、またイベントサポーター17名と、イベントを行うに当たっての体制がとてもしっかりしており、また協力者もたくさんいらっしゃると感じております。また、今いろいろな担い手不足等々によりまして、イベントに関わっていただける方を集めるのが大変な町会さんも多いと思うんですけれども、どのようにして町会の体制や協力者を集めているのか教えていただければと思います。

○南新井自治会 ちょっとだけ背景をお話ししておくと、当自治会の役員は任期1年です。再任は妨げないんですけれども、これまで再任された経験がないというか、もうほとんど毎年毎年役員が総入れ替えしてしまうような状況になっております。

そういった中で、実は秋に南新井まつりという唯一のイベントがあるんですけれども、新しい役員さんはその祭りのための準備、それと実施、それを役員がやらなければいけないということの中で回しているものですから、ほとんど1年間、役員になって祭りの準備をして、秋口に祭りが終わりましたと。その後にそれ以外のことをやり始めても、やっとなんか何をやればいいのか分かる頃にはもう任期が終わってしまうみたいな、そんなような形で、まったくもって継続性が取れないような状況でした。そういった中に、3年前に、では常設の委員会を置いて、役員が替わってもいろいろなことを継続できるようにしようというふうにしたのが、この中で出ておりますイベント委員会と広報委員会でございます。

イベント委員会はお祭り等のイベントを企画開催する役割ですけれども、これについては、南新井まつりは実は40年ほどの歴史がございます。40年前にそういった祭りを立ち上げた人たちというのはもう現状今80歳代とかになって、そういった方々を巻き込むことはなかなか難しかったので、そういった方々に、イベントのときに、祭りのときに誰が活躍していましたかということヒアリングさせていただいて、個別に人集めをしたような形になっております。ありがたかったのは、ちょうど40年前に小学生とかで祭りに出られた方が今50～60代という形で、まだまだ自治会としては活躍できる年代ですので、そういった方々を中心に常設の委員会として立ち上げました。

サポーターのほうは、できるときにできることをやっていただければいいですという形で、あまり義務感を持たないで御参加いただくという方々を集めまして、17名ですね。これはLINEでグループをつくって、そこでやるような形にしております。

広報は、私が代表を務めておりますけれども、やはり今、デジタル化ということの中ではICTの技術が必要になってきます。私自身もそうなんですけれども、そういったことを仕事にしている人を集めるというか、自治会の中でそういったITのノウハウを持っている人、あるいは編集とか動画をつくったりですとか文章を書いたり好きな人、そういった方々を個別に広報委員会として集めたり、あるいはプロボノ、東京都さんの地域の課題解決プロボノプロジェクト、こちらを以前活用させていただいたんですが、そのときにお世話になったプロボノの方と仲良くなって、実はその方々の任期が終わった後も継続的に御支援いただいていたります。そういった方々が今、広報委員会のサポーターとして残っていただくというような形になっております。

○地域活動推進課課長代理 ありがとうございます。役員の方の任期が短期間で終わってしまう中で、得意分野、経験のある分野で常設の委員会を設けたり、また、気楽に気軽にお手伝いいただけるサポーターをつくったりということで、2段構えで役員を支えるような体制をつくっていただけるということで、とても参考になりました。ありがとうございます。

続きまして、安否確認訓練のデジタル版の部分についてお伺いできればと思うんですけれども、デジタルを活用したこういう安否確認訓練、イベントというのは、なかなかハードルが高いと思う町会さんも多いと思うんですけれども、今回LINE公式をやられていて、それを使って訓練をされたんですけれども、安否確認の登録フォーム等々、準備はどれくらい必要なものなんでしょうか。ほかの町会さんとかでもできるようなものなのかというところを教えていただければと思います。

○南新井自治会 実は――実はというか、皆さん、LINEって自治会の加入者がどれぐらい使えるかをお調べになったことがあるかもしれませんけれども、私どもも調べましたら、結構高齢の方でもLINEは使えるという方が多かったですね。例えばお孫さんとのやり取りですとか、友達との写真のやり取りですとか、そういったものでスマホを使う。それがメールではなくてLINEというのが多かったというのが裏でございます。その上で、ではLINEの公式アカウントというメニューボタンというのがあるんですけれども、そのボタンから飛んで、いろいろな情報を見るだけではなく入れていただくということを仕組みとしてつくる上で、Googleが提供していますGoogleフォームというのがございます。これは無料で使えるんですけれども、このGoogleフォーム上に安否確認の登録フォームをつくりました。多少ITの知識がある者がつくったので1日ぐらい

のでできるんですけども、正直、例えばAmazonでお買い物ができるぐらいのウェブ操作ができれば、意外とフォームというのは、ベースは簡単にできると思います。そういったものを使って今は回しているような形です。これは1回つくればもう何回でもつくれますし、実は日野市内のほかの自治会さんからどうやってつくったのというお問合わせをいただいたときに、私どもはその自治会さんにこの仕組みを御説明差し上げたんですね。そうしたら、Googleフォームが使えてExcelが分かれば何かできそうだねということで、実際その自治会さんでも使っていておられます。

ということで、そういった回答でよろしいでしょうか。

○地域活動推進課課長代理 ありがとうございます。ちょっともし使いたいという方から御相談があれば御協力いただいて皆さんで使われているということと、一度つくればまたずっと継続していけるということで、参考になるお話をありがとうございました。

続きまして、今度は加入促進についてお伺いをさせていただきたいと思います。今回、非会員の方にもチラシを配布して、3世帯の新規加入につながったということで、3世帯の方はどのようにして加入に至ったのか教えていただければと思います。

○南新井自治会 実はこの日、本当はもう1個別のイベントを企画しておりまして、残念ながらコロナでそちらのほうは中止をして、安否確認だけをやった形になっております。ですので、チラシは、両方のイベントをやるみたいな形のチラシを当初はお配りしておりました。そういった中で、今このコロナ禍の中で、例えば新しく越してきた方への声かけというのがなかなかできない状況がございます。ですので、ポスティング指定のチラシ配りだけではなく、そういったリアルに御近所の方でお渡しできる場所は配ったりをしたんですけども、やはりそういう中で言われましたのが、自治会がどういう活動をしているか分からないというお宅が非常に多かったです。

このイベントの中で、実はこのデジタル白いハンカチ運動ということに参加するためには、まず公式のLINEアカウントに加入してもらおうというのがスタートラインなんですね。そこから始まります。そうすると、その公式LINEから私どものホームページを見たり、いろいろな自治会の中の老人クラブですとか、ふれあいサロンですとか、そういったところの活動状況が分かりやすく見れたり、防災の情報も見れたり、まずはそこらで自治会が何をやっているかということを理解していただいた上で、この安否確認訓練自体が非常に今風で楽しかったということで、興味を持っていただいた方が、自治会として防災にすごく力を入れているし、その防災の活動自体が分かりやすいものだったということに

メリットを感じていただいて、その新しく来られた方が御近所の新しい方にも口コミで広げていただいたというのが加入促進につながったと考えております。

○地域活動推進課課長代理 ありがとうございます。まずは幅広くチラシで周知をして、そこでLINE等々を使っていろいろな取組をしているというところで興味を持っていただいて、加入につながって、近隣の方にも声をかけていただけたということで、すごくいい事例だったなと思います。ありがとうございます。

では、最後に、簡単に、ほかの町会さんの参考になることですかアドバイス等がありましたらお願いいたします。

○南新井自治会 東京都さんの地域の底力の助成金ですとか、地域の課題解決プロボノプロジェクト、いろいろなものがあるんですけども、正直私どもの自治会では、3年前までというか、私自身が役員になるまでは全くそういったものを活用しようという、ちょっとでも思いつかなかったというような状況でした。やはり申請については大変な面もあるんですけども、もう今、単独の自治会だけでいろいろなことというのはできない状況にあります。私どもも会員が今187世帯なんですけれども、どんどん減っていく中で言うと、新しいことをやろうと思ってもお金がないという状況がございます。とにかく難しいけれども、とにかく思い切ってそういったものを使っていただいて、加えて、プロボノが非常に役に立ったんですけども、プロボノの活動ってワンショットなんですよね。ワンショットというか、あるタイミングだけスポット的にお願いできるので、やはりそれに継続性を持たせようと思ったら、自分の地域の中に地域のプロボノをつくっていかないといけないかなというふうに思います。そういった人を見つけて、そういった人たちが動きやすいような環境をつくっていくということが一つの自治会のこれからの役目なのかなというふうに思っております。

○地域活動推進課課長代理 いろいろと大変参考になる話をありがとうございました。

すみません、委員の皆様からの質疑応答なんですけれども、3町会様終わった後に質疑応答を行いたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、最後に、中野区の宮桃町会様の「みやももカフェ及び、見守りキーホルダー作成による見守り活動」を御紹介いたします。

事例集の10ページ、11ページを御覧ください。

まず、事業概要になりますけれども、本事業は「お出かけ安心キーホルダー」の普及により、高齢者や障がい者の方などが安心して外出して活動できるようにすることを目指す

ものになります。お出かけ安心キーホルダーについては、左下の写真を御覧いただければと思います。キーホルダーにQRコードがついておりまして、このQRコードに緊急連絡先が登録されています。外出先での急な体調不良や緊急搬送、認知症による徘徊など、いざというときにQRコードを読み取ってもらうことで迅速に身元確認ができるというものになります。

事業概要にお戻りいただきまして、宮桃町会様では、地域に住む高齢者や障がい者の方などを対象として、毎月第1木曜日にコンサートなどを実施するみやももカフェ、毎月第3木曜日に映画上映などを行うみやももシアターを実施しています。その参加者にお出かけ安心キーホルダーの登録者を募集し、お渡しをいたしました。

また、中野区では、見守り対象者名簿を希望する町会・自治会様に提供しております。その見守り対象者名簿に記載のあるお宅を訪問して、みやももカフェやお出かけ安心キーホルダーを案内しました。

地域の底力助成金についてですけれども、キーホルダーやQRコードを印刷するラベルシールですとか、みやももカフェで使用するアクリル板や除菌・検温スタンドの購入費、印刷経費として活用いたしました。

11ページを御覧ください。みやももカフェには、2月と3月、3回で延べ130名が参加し、映画上映やコンサート、健康体操などを楽しみました。また、参加者にお出かけ安心キーホルダーの利用案内と申込み相談を実施し、家族分を含め約200名からの申込みがありました。また、見守り活動では2月24日の1回目に160軒の見守り対象者の自宅を訪問し、みやももカフェとお出かけ安心キーホルダーの案内を行いました。訪問したお宅から合計で100名分の申込みがありました。2回目の訪問では約70軒を見守り訪問するとともに、完成したキーホルダーをお渡しをいたしました。

それでは、青木様のほうに幾つかお話を伺いたいと思います。よろしく願いいたします。

まず、高齢者の見守り活動なんですけれども、毎月実施しているみやももカフェ、シアター、また見守り訪問など、地域の見守り活動に力を入れていらっしゃると思います。実施するにはかなりの人数の協力者が必要だと思うんですけれども、どのようにして集めていらっしゃいますでしょうか。

○宮桃町会 集めるというよりは、集まってくださったという感じです。中野区には生涯学習大学という取組があります。数年前、地域デビューの体験先でみやももカフェのお手

伝いに来てくださった方々が楽しいと、そのまま継続してお手伝いに残ってくださっています。さらに、その皆様がグループを立ち上げ、毎回、「今回は何名行けます」という、出られるときだけの緩やかな体制までつくっていただきました。ボランティアしたいという方たちのネットワークとつながるようにするのも一つかと思えます。

見守り訪問は月2回、10名から12名、カフェで15名、シアターで8名が活動しています。町会役員で毎回携わっているのは会長含め5名だけで、あとはボランティアの方々です。町会費を極力使わず、助成金を活用させていただいているため、町会外からの参加もしやすいのが特徴です。地域デビューしたい、でも地元にはお手伝い先がないという方が意外といらっしゃいます。お手伝いしてみたいというお声をキャッチしたら、即、どうぞどうぞとこちらも門戸を開いて、居心地がよかったらそのまま残ってくださる、そのようなつながりです。

○地域活動推進課課長代理 ありがとうございます。活動を継続的に実施できるように工夫している点などはありますか。

○宮桃町会 まずは、私たち中心者が、無理をしない、自分たちが楽しむ。あと、試しにやってみるぐらいの気持ちで取り組んでいます。参加者もお手伝いも、町会内にこだわらない、加入・未加入にこだわらない。そして活動日を固定する。見守り訪問も、第2日曜日の午前中と第4木曜日の午前中に固定しています。10時に集まって11時半には解散する。雨の日はもう中止。一緒に動いてくださる方があっての取組ですので、負担にならないように心がけています。

○地域活動推進課課長代理 ありがとうございます。広く門戸を開いて参加いただくということ、また、参加していただく方の負担にならないように工夫するということが大事なのかなと思いました。

続きまして、お出かけ安心キーホルダーについてお話を伺えればと思うんですけども、この取組はほかの町会さんでも参考になると思うんですけども、どのような手順で、どのくらいでできるものなのか、教えていただけますでしょうか。

○宮桃町会 キーホルダーの取組は、作業工程は別紙を見ていただくとそのままなんです。よかったら申込みのフォーマットも、入力フォーマットもそのままでもよければ、いくらでもひな形を差し上げますので、言ってください。情報も二次元コードも、アプリを使えば簡単です。大体1時間で、それでもチェックをしながらやるので、丁寧につくって、1時間で1人で5～6人分。なので、つくれる人を増やしていくというのは大事なと思いま

す。

後ほどお話しいたしますが、地域で大々的に始めるよりは、まずはこの取組自体を理解してもらうことが大事かと思います。既にあるサロンなどを利用したり、申込み会という場をつくって、対面で説明し、理解し、賛同してくださった方から申し込んでいただくとよいと思います。町会費から費用を捻出するのではなく、助成金を活用することで役員の皆様の理解も得やすいと思います。何人か分を取りまとめて持ってこられる高齢者サークルの中心者の方々もいらっしゃいました。後日の回収、お渡しの作業が課題かと思うんですが、地元の、私たちが言うところの桃園区民活動センターの事務局が協力してくださったのがとても助かりました。

○地域活動推進課課長代理 ありがとうございます。本当に簡単につくれるような形で考えられていて、とても参考になる取組だなと思います。ありがとうございます。

最後に、全体を通じてほかの町会さんの参考となるアドバイス等々がありましたら簡単にお願ひできればと思います。

○宮桃町会 私がこの取組をして一番よかったと感じたことがあります。それは、「緊急連絡先がないからつからない」とおっしゃった方や、緊急連絡先がなくてどうすれば良いか。と相談してくださる方に出会えたことです。その方々こそ、この取組をしたから分かったこと。「普段一緒にいるお友達に緊急連絡先になってもらうのはどうですか」と尋ねると、「そこまでは頼めないわ」というお返事でした。そのようなときには、区民活動センターにいるアウトリーチにつないだり、地域の民生委員さんにつないだり、かかりつけの病院だけを書いていただいたり、時には私が連絡先になったりと、個別にケース・バイ・ケースの対応をいたします。申込用紙が書けたときのうれしそうな、ほっとしたような顔を見たとき、お出かけ安心キーホルダーづくりの目的がここにあると感じました。このプロジェクトの背中を押してくださったのが地域の底力助成金と、大変感謝しております。

以上です。

○地域活動推進課課長代理 ありがとうございます。底力を活用して、ずっと取り組まれてきた見守りの活動の中にまたキーホルダーという新たな取組を入れられて、ますます地域の方々のために活動されていることで、本当に私どもとしてもうれしい限りです。ありがとうございます。

○宮桃町会 ありがとうございます。

○地域活動推進課課長代理 3町会の皆様、ありがとうございました。

以上で事例紹介を終わらせていただきます。

○座長 3町会の皆様、本当に丁寧な御説明ありがとうございました。どの事例も様々な工夫をなされていて、大変参考になったかなというふうに思っております。

それでは、ここで皆様方からこの3町会の事例、今関連して、何か質疑もしくは意見交換などをさせていただければと思いますけれども、何か3町会への御質問でも構いませんし、関連して何かこういうことを聞きたいというようなお話でも構いません。どなたかいらっしゃれば御発言をお願いいたします。

○文京区 文京区なんですけど、ちょっと最初の餅つきのことでお聞きしたいんですけど、私どもも餅つきをやっていたんですけど、これ、1番目は、何キログラムのお米を買ったのかということが1番ですね。

それから、2番目に、機械を使わないんですかという、全部手で持つてついているんでしょうかという。私どもでもやると、やっぱり1人6臼ぐらいつくともう疲れちゃってできないということがあるんですね。

それと、餅つきは全部お金を取らないで無料で配布するんでしょうかということ。

以上なんですけど。

○菊川一丁目町会 最後の、お餅は全部無料です。それで、町内以外の方でも参加していただく方には全て無料で、豚汁も含めて、3種類の餅と豚汁とを無料で配布させていただいております。

お餅は、地元のお菓子屋さんで七分づきのお餅をついていただいて、あとは簡単に子供でもつけるような状態をついていただき、小分けして皆さんに配布させて頂いています。

それと、お餅については45キロです。ちょっと最近値上げをしまして、45キロで1キロ1,040円位だったと思います。本来ですと、500人分ですともう少し、多かったのですが、今年は、45キロです。

あとは、つき手は、先ほど言ったように子供とか子供のお母さんとかが結構いっぱい来て頂き、子供のお父さんにもついて頂きます。子供達はお餅つきを楽しみに結構並んでついています。仕上げは子供会のお父さんを中心に、つき手に関しては特に今まで困ったことはなかったと思います。

○座長 ありがとうございます。ポイントは、一からではなくて7分づきまでしていると

ころなのかな。だから女性でも子供でも参加しやすいというところが一つあるということですかね。

○文京区 そうですね。私なんかが見ていると、子供はやっぱりできないですよ。やっぱり、まねだけ、格好だけやるだけで、あとはやっぱり大人の。それと、最初にこねるのが大変なのよ。あれでもって決まっちゃうんですよね。それと、私なんかは機械を使うわけですね。そうすると、機械でやったのと人がついたのは、やっぱり人がついたほうが美味しいんですよ。それと、さっきのお話がありましたけれども、つきたてのお餅って美味しいんですよ。だから、あれをやっぱり子供たちに——大人でもそうですけど、味わってもらえるのがやっぱりいいなって私なんかは思っていますね。

○座長 ありがとうございます。ほかにございますでしょうか。

○羽村市 羽村の市川ですけれども、実は羽村も各39町内会あるんですが、今までほとんど餅つきをやっていたんですけど、実は衛生面で厳しく言われまして、今ほとんどやっていないというような状況になっています。それは、社協のほうもふれあい福祉まつり等でも餅つきをやっていたんですけど、それも厳しく言われまして、今はもう全部中止になっちゃっているのかなというふうに思っています。

それで、その内容は、実を言うと、先ほど有料か無料かというお話があったんですけど、ついてその場で無料で皆さんがそこで食べるのは何かいいようで、それからまた、その餅をつくときにビニールの手袋ですか、それをしないと駄目だとか、いろいろな条件があって、それで結果的にはもう各町内でそこまではできないということで、実はほとんどが中止になってしまっているような状況です。

手袋をして、杵を持って、それからまた餅だから手合わせというのがあるんですよ。それを、手袋のビニール手袋で手合わせができるのかなって。やったことないからよく分からないですけど。素手での手合わせはやっていましたけれどもね。ちょっとそんなところがあって、多分ここまで厳しく言われるとやるところがなくなっちゃうのかなというのも当然かなというふうには私は思っています。

ということで、今の状態では再開するのはかなり難しいかなと。ちょっとその辺が、保健所の指導がどの程度かというのをもうちょっとはつきりさせてもらえれば何とかできるのかなというふうに思いますので、その辺のところを、もしできたら調整をよろしく願いします。

私のほうからは以上です。

○座長 ありがとうございます。

ごめんなさい、私の進行がというか、うちのほうの事務局の進行が悪くて、もう時間が迫ってきてしまって申し訳ないんですが、ちょっと私のほうから1つ御質問させていただきたいんですけど、日野市さんがイベントサポーターという形を取られていたりですとか、中野区の宮桃町会さんが非常に門戸を広げて、地域の人ではなくて別な地域の方でも来て、手伝ってくださる方はどうぞというような形でしていたりとか、従来の当番制でというか年番で回ってくるような町会活動ではなくて、意欲のある方、自分の好きなときに好きな活動をやってくださいねというような形で、ここはうまく回っている例なのかなというふうに思ったんですね。なかなかそううまくいかないで悩んでいらっしゃることも多いと思うんですけど、そこというのは、初めのきっかけで意外とスムーズに手挙げがぱっとあってできたものなのか、それとも大分真剣に働きかけて、どういう水に向けてそういう人たちを呼び寄せたのかというのをちょっとお聞かせいただければなと思うんですけども、日野市さん、中野さんという形であればと思います。

○南新井自治会 先ほど宮桃町会さんも言われていましたけど、何かやりたい人って結構いるんですよね。だから、やっぱりそういった方々をいかに見つけ出して、その人たちがやりやすいような場をつくってあげるかということに尽きるのではないかなと私どもは思っております。

○座長 やりやすい場というのはどんな感じですか。どういう工夫をされたら皆さんがという感じなんですかね。

○南新井自治会 ちょっとお恥ずかしながらで言うと、例えばいろいろ、こういう自治会の、過去の自治会役員経験者の方々がずっと積み上げてきたものをある程度崩すような部分も出てきてしまうものですから、そういった方々の御理解を得ながら、それで若い人たちだとか、先ほど言われていたように外部の方だとか、そういった方々が自治会のお手伝いをしてくれるということの、そっちのほうは結構時間をかけました。やってくださる方を誘うほうは意外と、本当に皆さんやりたがっていますので簡単——簡単というか、そちらのほうは全然楽だったかなと思っています。

○座長 ありがとうございます。

では、中野さんもお願ひします。

○宮桃町会 早かったのは、役員さんの中に生涯学習大学に入っている方がいたことです。中野区の生涯学習大学は目指すところが地域デビューの下地をつくるということだったの

で、さっそく何人かを連れて来てくださったのがきっかけでした。お手伝いに関してはもう早かったですね。大事なのは、その方たちはほかの町会の皆さんなので、例えば来たときに「何でうちの町会じゃないのにそちらを手伝っているの」って、その方たちが居心地が悪くならないようにというのを最大に配慮しました。この地域の底力の助成金で本当に助かって。ある意味、「みやももカフェ」という名前も変えちゃいたいぐらいでした。

「みやもも」とつくと、町会の何かというイメージになってしまうので、あえて平仮名にしているぐらいなんですけど。企画しているのは宮桃町会のメンバーだけれども、運営しているお金は助成金を使わせてもらっているから、ある意味誰でも、来て参加もしやすいし、お手伝いもしやすい。何かちょっと性に合わないなという方は来なくなる、居心地いいなという人は残る。そんな感じです。

○座長 ありがとうございます。

ちょっと時間も過ぎたので、もしこの場でこれだけは聞いておきたい、これだけは言っておきたいという方がいらっしゃれば。いかがでしょうか。

○羽村市 度々で申し訳ないんですけど、これだけはお願いをしておこうかなというふうに思っているんですけど。実は、羽村なんですけど、加入率が今年末で多分30%を切っちゃうんじゃないかなというようなことで今心配をしているところなんですけど、そういう関係で、今連合会の中に加入促進部会というのを立ち上げて、加入促進対策を今検討しているところなんですけど、なかなかいい案というか、実際のうまい活動に結びついていけないというのもありまして。それからまた、実は去年の暮れに、総務省消防庁が消防団員の確保のために何か動いてくれるというような話がありましたよね。皆さん知っていると思うんですけど、80万人を切っちゃったと。1955年には200万人の消防団員がいたのが、昨年ですか、もう80万人を切っちゃったということで、総務省が消防団員の確保に動くというような記事が出ていましたけれども。町内会も全国的に多分加入数がどんどん減っているのではないかなというふうに思うんですよね。

それで、お願いは何かといたら、例えば東京都の方で防災——やはり町内会って防災が一番メインかもしれないので、9月1日の防災の日の前後辺りに、町内会に加入しようというようなテレビで放映したら加入率もかなり増えるんじゃないのかなというような。というのは、実は東日本大震災の後ほどこの町内会も加入率が上がったというような話も聞いているんですよね。そんなことがあって、もしできたら、まだちょっと期間はありますから検討していただいて、その前後に共助の関係をPRしていただいて、町内会

に加入しましょうというような、うまく考えてもらって、その辺のPRをぜひやっていただけたら助かるなというふうに思うんですけど。もう30%切ったら町内会の存在がなくなっちゃうんですね。そんなような気がするので、ぜひその辺はお願いをしたいなど。実は、そのことについて東京都はどう考えていますかと今日はお聞きしたかったんですけど、もう時間がないようですから結構ですけど、ぜひよろしくお聞きしたいと思います。

○座長 ありがとうございます。やはり町会・自治会、どこで住民の方が身近に感じるんだろうか、自分ごとに捉えられるんだろうかという中で、防災、災害時というのは実は非常にキーポイントなんだなというのは、ここで幾つか検討会の中でも、今日だけではなくていろいろお話も出ていたところでもあります。そういった面は東京都としても、ちょうど関東大震災から100年ということで来年度はいろいろ都としても事業を立ち上げていくタイミングでもありますので、いろいろ検討させていただければと思っております。ありがとうございます。

○羽村市 よろしくお聞きします。

○座長 はい。

すみません、私の進行がまずくて、ちょっと時間が過ぎてしまいました。

では、まとめに入らせていただきたいと思います。

本日は、地域の底力発展事業助成金を活用いただいて活動していただいている3つの町会の皆様の取組についてお話をいただいたところです。

まず、墨田区の菊川一丁目町会さん、伝統的な餅つき大会という取組を今日的にといいますか、いろいろと工夫をし、見直しをして、何とか続けていきたいというような取組であったと思います。また、併せて外国人の方などにも声をかけることで、伝統的なお祭りプラス、そういった新しい方々への交流の場としても工夫を広げていらっしゃるんだなということを感じました。

また、日野市の南新井自治会さんの中では、やはりイベントサポーターという制度、そこを、やっぱりできるときにできることをやってもらう。ただ、最後にちょっと私からもお聞きしたんですけど、その方々を受け入れていくときには、今までしっかり積み上げてきたものももしかすると、言葉はあれですけど変えていく、壊していくというような、何かそういったところも併せてやっていかなければいけないので、自治会さんからのほうもそこにすごく時間をかけたというようなお話がありました。またいろいろと気づきになるところではあるし、今後新たな担い手を求めていく中でも、大変ではあるけれどもそこと

というのは一つキーなのかなというようなことを感じたところです。

また、中野区の宮桃町会さんがおっしゃっていた「地域デビュー」という言葉もすごく重要なのかなと思ひまして、中野区は区のほうが大分「地域デビュー」ということをキーワードに進められているようですけれども、自分の住んでいる町会ではなくても、逆に自分の住んでいる町会だと近過ぎるから、ちょっと隣とかちょっと近辺のところの手伝い、やりたいことをやってみて、「あっ、町会ってこんなことをやっているんだ。じゃ、自分の地元のほうものぞいてみようかな」というようなきっかけになっていくのかなというふうにも感じまして、やはり少しでも意欲のある方、関心のある方をどう——言葉は悪いですけど、引っかけてというか、使われて、こちらに来てもらうかというところがいろいろ今日は聞けたのではないかなというふうに思いました。本当にどうもありがとうございます。

では、最後に、吉成副座長、今回の感想をお願いできればと思います。

○副座長 私は副座長を務めております東京都及び中野区町会連合会会長の吉成でございます。

私の感想といいますと、中野区からは宮桃町会の見守りキーホルダーの事例の報告をいただきました。ありがとうございます。私も、キーホルダーという、これをつけているんですね。キーホルダーだと、ズボンにつけて、忘れちゃいけないと思って常に持っている。携帯につけているんですよ。いざとなったときに、ここに書いてあるんです。緊急時は右のQRコードを読んでください。いざとなったとき——まあ、そんなことはあつてはいけませんが、交通事故に遭ったようなときに、調べているうちにこういうのがあつて、これを調べると緊急連絡先、私の子供のところへ連絡するとかそういうふうになっているんですね。これはなかなか便利でいいなとは自分で思っております。

今回の報告いただいた事業では、宮桃町会の皆さんが、先ほど160軒の見守り訪問を行いながら、キーホルダー、みやももカフェの参加を呼びかけてやっていたということですが、これはたしか去年の2～3月のコロナの真っ最中でやったんですね。本当に大変な取組で、素晴らしい取組かなと、このように思っております。

また、デジタルを使った事業についてですが、今回の東京都の事例集を見ますとデジタルを使った事例がたくさん紹介されておりました。私の町会でも、コロナ禍になってから活動を止めないためにLINEで会議をするようになって、コロナになってからはすぐ、私も孫がいて、子供たちがシンガポールにいるものですから、孫とはLINEでやってい

たんですね。それをヒントに、役員さんとLINEで会議をやるというのをコロナになってからすぐに始めたんです。先ほどの報告の中にも、それはやっぱり便利なんですね。私のところは子供会や婦人部とかいろいろなコアをつくって、それで連絡をするということで、便利ですから、こういうのも使うとなかなかいいかなと思っております。

また、デジタルの活用には様々なハードルがあると思いますが、この事例集も参考にしながら皆さんもできることを試していただければと、このように思います。

今日御報告いただきました町会・自治会の皆様、どうもありがとうございました。感謝申し上げます。（拍手）

○座長 吉成副座長、ありがとうございました。

では、すみません、お時間大分過ぎてしまいましたけれども、本日の議事は以上といたします。

これをもちまして令和4年度第3回東京都地域活動に関する検討会を閉会いたします。皆様、御協力どうもありがとうございました。

また、次回開催につきましては来年度4月以降となりますので、また日程が決まり次第御連絡をさせていただきたいと思っております。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

本日はありがとうございました。

午後2時48分閉会